会計学原理Ⅰ

科目ナンバリング　ACC-103
選択　　2単位

徳山　英邦

1. 授業の概要（ねらい）

会計は、「ビジネスの言語」と呼ばれています。会計学原理Ⅰでは、会計の目的、財務諸表（会計データ）の見方と会計システムを学修します。講義方法は、当日の学修テーマを概説し、演習問題で具体的課題箇所を実感してもらった上で、再度その学修意義を解説する手順で行います。会計の土台は複式簿記です。春期は、簿記の理解に根差した理解のために、簿記の記帳実践と関連づいた授業になります。

2. 授業の到達目標

財務諸表の理解を深めることを目標とします。主に、(1)財務諸表（貸借対照表、損益計算書）の必要性と特徴（ストックとフロー）、(2)財務諸表の構成要素の理解、(2)財務諸表の相互関連と計算原理の把握、(3)制度的基盤（基準や法規）を把握することを目標とします。

3. 成績評価の方法および基準

授業中に行う小テストや課題の提出状況・受講姿勢（35%）と定期試験の成績（65%）を目安に総合的に判断します。

4. 教科書・参考文献

教科書
新田忠誓、他著　『会計学・簿記入門』（第16版）　白桃書房
参考文献
近田典行、他著　『基本から学ぶ会計学』　中央経済社

5. 準備学修の内容

授業中に配布するプリントを自分で解き、各回の学修事項をイメージ化し、作図化してください。初めて出会った専門用語の定義を書いてみてください。また、教科書と関連づけて反復して理解するように努めてください。会計学の習得には、自ら実践的に学ぶことが必要です。

6. その他履修上の注意事項

計算機、3色ペン、各回に配布済みのプリントを毎回持参して下さい。理解度確認を目的とした小テスト（約30分）を1、2回程度実施します。

7. 授業内容

【第1回】	ガイダンス（授業の進め方、成績評価、履修上の留意点）、学修の必要性
【第2回】	家計のパイの拡大と分配、そして企業のパイの拡大と分配
【第3回】	家計簿と企業会計（発生主義会計）の共通点と相違点
【第4回】	複式簿記の基礎：階梯式計算と勘定式計算、ダブルエントリー・システム
【第5回】	損益計算書と貸借対照表、そして利害関係者（ステークホルダー）の誘因と貢献
【第6回】	企業活動と経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報技術）、店と奥の分離
【第7回】	企業資本の委託・受託と会計システム（投資・消費及び浪費、出資・融資及び収益獲得活動の捕捉）
【第8回】	企業の財務諸表の入手方法と活用事例（損益計算書と貸借対照表の表示様式）
【第9回】	簿記一巡の流れと貸借対照表、損益計算書のつながり方（利用者と作成者の視点）
【第10回】	損益計算の基本原則（収益の実現と費用の発生、費用収益対応の原則、収支主義）
【第11回】	資産測定の基本原則（取得原価主義と費用配分の原則）
【第12回】	財務諸表の相互関連（表示様式とルール）
【第13回】	株式会社と会計（所有と経営の分離、株主有限責任制、直接金融と間接金融）
【第14回】	株主資本等変動計算書とキャッシュ・フロー計算書の役割
【第15回】	学修内容のまとめ